

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 30 年 7 月 20 日 (金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 : 13 名 (委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 13 名
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 平成 29 年度各科卒業研究・卒業制作発表会 (第三回学校関係者評価委員会および第三回教育課程編成委員会) 梗概 ⑤ 平成 30 年度第一回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑥ 各科ディプロマポリシー資料 ⑦平成 29 年度自己評価報告書
会議録	<p>1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ井坂副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、学校法人小山学園高瀬本部長、専門学校東京テクニカルカレッジ白井校長より挨拶が行われた。</p> <p>3. 委員紹介 井坂副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。</p> <p>4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、日本インテリアプランナー協会霜野隆委員が委員長および議長に、副議長として(株)データテクノロジー渡邊和彦委員が、書記として(株)光英科学研究所小野寺洋子 委員が選出された。</p> <p>5. 開催要件の確認 事務局より委員 26 名中 23 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 第一号議案：平成 29 年度第 2 回会議議事録並びに平成 29 年度第 3 回「卒業研究・製作発表会」の内容についての確認 議長は事務局に対し、資料③、④に基づき前回議事録ならびに発表会概要の確認を指示し説明をさせた後、これを出席者に回ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。</p> <p>(2) 第二号議案：平成 29 年度事業報告および平成 29 年度自己点検評価報告書に関する説明 議長は事務局に対し、平成 29 年度における事業計画の実施結果について報告を指示、次いで自己点検評価報告について指示した。事務局はこれに応じて以下の様に報告を行った。</p> <p>(2)-1 29 年度事業報告 (白井校長)</p> <p>①全体総括 (白井校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校を取り巻く状況は大きく変動している。(2020 年からの教育改革、大学入試選抜方法の変更、教育保証、専門職大学、高等教育無償化、人生 100 年時代のリカレント教育など) ・この状況を踏まえ、経営と教育の安定化を目指して募集・教務・学科エンrollmentマネジメントポリシー、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの三ポリシーの確立に努力する必要がある。 <p>②学生募集 (白井校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者 201 名 (目標は 215 で未達なるも、昨年度 191 よりも入学者増。特に 3 月に急増)。これにより在籍者数 400 名となり昨年度よりも 42 名増。回復傾向にある。 ・3 月の急増は今年度期待できないと判断。前倒して募集を実施する必要性あり。 <p>③就職状況 (白井校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堅調に推移 (8 月 80%内定 5 科、12 月 100%内定 5 科) 今後は就職の質向上にさらに努力。 ・就職活動→クラウドサービス利用するシステムに変更。どこからでもアクセスできるメリット。将来は卒業生の転職などへの利用展開も視野。 <p>④教務指標 (白井校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率、課題発生率、課題残数等教務指標はやや改善か横ばい。ただ退学率は 4.1%→8.9%に悪化。留学生の退学増。病気退学など。 ・運営面では常勤教員の労務管理に関し、時間外など未解決問題あり。 <p>⑤ディプロマポリシー策定の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を実施する上で必要となる三つのポリシー (アドミッションポリシー(入学受入れ方針)、ディプロマポリシー (卒業認定方針)、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施方針)に

については昨年同様検討を進めている。

- ・29年度はディプロマポリシーを策定。学校理解をさらに促進していく。

⑥リアルジョブプロジェクト報告

- ・学園理念（高い技術力と豊かな人間性を備えた人材）に基づく教育。高い技術力⇒履修改革
- ・人間性、コミュニケーションを促進させることを目的としてプロジェクトベースラーニングによる新たな教育→リアルジョブプロジェクト（RJP）授業を設定、取り組みを平成26年より実施。平成28年学習成果としてのテラカフェをオープン。正規科目化（ルーブリック評価シート、リーダーチャート、期末評価シート等を利用）。
- ・各科のRJP活動の概要説明(東中野マップ、教室リニューアル、緑化計画、AIシステム、スマートフォンゲームアプリ、RJPペーパー、ブレンドティーなどカフェメニュー開発、他)
- ・バイオカフェ、エコカフェなど市民講座への利用

⑦海外研修等特別プログラム報告

- ・海外短期留学研修（SISP；アメリカオハイオドミニカン大学）実施（14名参加）
- ・小笠原環境研修（10名参加）

⑧卒業生アンケート

- ・初期キャリア形成と教育効果の関係解明、自己点検評価、教育課程課題抽出について、卒業生を通じて知ることを目的として、卒業後1年目、5年目、9年目の卒業生にアンケート調査。160名回収（回収率11.6%）
- ・学生が参加する授業、自己の意思や考えが求められる授業の頻度が増加していること。仕事においては問題発見して対応する能力の必要性を感じていることや、卒業時および現在での習得度の変化についての報告があった。その他アンケート結果から、知識技術指導と問題解決能力指導が一体化された授業を作る必要があることに言及。自己評価報告書にまとめた。

(2)-2 平成29年度自己点検評価報告書関連（井坂副校長）

- ・資料⑦に基づき、改定部分（前回指摘事項とその対応）について説明が行われた。育成人材像の明確化（ディプロマポリシーの明確化）。入学前教育、厚労省の委託授業取り組み、総合研究科取り組みへの賛同。卒業生の動向調査、学生支援改善策、同窓会活動の活性化施策、卒業生調査キャリアアップの状況、学生募集と受け入れ、情報発信提供方法の改善、学科を中心とした募集施策、他校との比較情報の明確化、社会貢献、地域貢献、等。

(3) 第三号議案：平成30年度事業計画概要と取組内容の説明（白井校長）

①基本方針

- ・入学225名、退学率5%以内目標。
- ・就職早期内定、さらに優良企業（質の向上）を目指す。
- ・ディプロマポリシーを達成するためのカリキュラムポリシー（CP）策定。
- ・学習成果を明確にしたシラバス・コマシラバスに改訂→学習効果向上。

②策定の計画

- ・カリキュラム編成の方針、教育方法の方針、評価方法の方針、この三つの取り組みをまとめる。
- ・教務上のPDCAが機能するカリキュラムポリシーとする。
- ・ディプロマを達成するためのシラバスの改訂への取り組みを検討。

③シラバス改訂の計画

- ・ディプロマポリシーと科目の関連を精査→該当科目表作成。
- ・カリキュラムフローチャートみなおし。授業の必要性、配置の検討。
- ・各科目の学習成果（ラーニングアウトカム）を明確化（わかる目標、できる目標）。

④リアルジョブプロジェクトに関する計画

- ・東中野地区調査、地域調査および提案、教場スペース改善提案、カフェインテリアグリーン導入、9F廊下・6F学生ホール・各階フリースペースの改装計画、KAIBERによる図形判定AIシステムの開発、テラカフェ新規メニュー開発、実験教室計画、緑化計画、東中野紹介動画制作、RJPペーパー・うさごはんカレンダー、東中野フォトジェニックスポットなど新規課題にも取り組む。

⑤厚生労働省委託事業に関する報告

- ・キャリアチェンジを望む事務職中高年を対象としたコレスポンド関係業務に関する教育訓練プログラム開発事業を昨年度受託（3ヵ年）。45歳以上の再教育は国の緊急の課題。昨年はヒアリングアンケート実施。今年度カリキュラム作成。

(4) 第四号議案：審議（取り組みに関する意見交換）

議長は学校の取り組み全般に対する各委員の意見交換を促した。また井坂副校長より審議の主旨について再度説明があり、説明事項のみに限定せず、自由で率直なご意見ご感想をいただきたい旨のお願いがあった。以下に各委員の発言概要を示した。

安藤委員（建築卒業生）：卒業後20年経過。会社役員であり、募集で学生面接する立場。

会社から見た就職についてですが、現在10人内定させても1人くるかどうかという状況。人材の確保が難しい。諦めて手当たり次第取るうかとも思ってしまう。ただし会社側もドライになっている。

能力もさる事ながら、1本筋の通った人材が欲しい。
今の取り組みの中で海外研修が良いと思う。12時間飛行機に乗るのは年取ると辛い。若いうちにいろいろなことを見ておくのが良い。ベトナム研修にも魅力を感じている。
今後迎える2020年オリンピックでの混乱が起きる。いまは足掻く時期である。
報告では全体的に幅広くやっている。もっといろいろなことにチャレンジして行って欲しいと感じている。

渡邊委員（情報卒業生）：2点あり。

1点目は退学者増加の理由は？これを減らす対策は？そのへんがどうなのか聞きたい。

2点目はAIについて。学習方法がAIのポイントと思う。発想が大切。今回学生の学習方法について聞いてなるほどと感じた。まだ実用性に関しては？会社の中では工場の装置の故障予知とかお金になることをやっているが、何年かしたら社会的課題、地域的課題を解決しうるAIが一緒に作れたらと思う。

澤坂委員（ゲーム卒業生）：学生の募集と受け入れの関係。まず昨年3月になって増加した理由は？学生に対するアンケートなどの調査はしているのか？

学生の受け入れ数は収益に直結する。この点に関するコメントがあっさりとして、少ないのではないかと思う。甘いように感じる。

いまの学生は何を見ているのか？なぜこの時期に入ってきたのか？という調査と募集に関する考えが必要ではないかと。

大沼委員（建築系学生保護者）：

就職活動真只中である。周囲の学生は内定得ているが、二人の娘は未定であせっている。

面接で躓いてしまっている。この点が弱い。学科授業の中で面接の教育を取り入れていただきたい。社会人経験がない学生であるのでこの点を強化して欲しい。

萩原委員（情報系保護者）：学校運営、募集に関してはなんとも言えません。子供は楽しそうに学校に通っている。内定もらえて良かった。今後社会に出るにあたって対応をどのようにしていくか考えていこうかと思う。学校には感謝している。

安藤委員（バイオ環境系学生保護者）：募集について。当校を知ったのは知人から勧められたことによる。PRをもっとしたほうが良い。ちょうど通勤途中で学校を見てはいたが、なんの建物なのかといった感じであった。具体的に中に入り込まないとわからない。例えば夏休み子供達を参加させる体験など将来のためにPRすると良い。ベトナム研修にも子供を参加させたいと考えている。

樋口委員（地域；商工会議所）：30年近く前、建築の授業担当していた。先月中野区長選挙があり、課長であった酒井さんが区長となった。15年前田中区長はサンプラザ壊して1万人のアリーナを作ると計画。一方新しい区長の酒井さんはサンプラザを残して新たな駅前開発をやりたいと言っている。建築の学生さんは新しい案を作ってこの計画に参加するようになって欲しい。

中山委員（地域；商工会議所）：最近二極化しているように感じる。例えて言うと重い仕事と軽い仕事。学校を出て直ぐにフリーになる人が低価格で軽い仕事を受けてしまう。

安い仕事を受け続けているとそれが固定化してしまう。先に進まなくなる。

当たり前の仕事を受けられる。一つひとつの仕事、商品に付加価値をつけられることが重要。

そのためには自分で考え、主体的に仕事をする必要がある。頼まれ仕事は受身になる。

物事に能動的に向き合えるか？そのモチベーションをどのように触発するか。

学校の教科の中で一つひとつの授業、カリキュラムに向かいながら能動的に出せるように。

会議資料の情報量が年々増えて、厚くなってきている。これだけのことをやっている。

これを対外的に視覚的、ロジカルに示していくと良いのではないかと思う。

岸委員（地域；町内会）：種々の課題を捉えてそれを解決しようとされていることは素晴らしい。

ただ課題発見能力・解決能力を持っている人が必ずしもそれに向けて動くわけではない。やはり人間的な部分が動かないと、人との関係の中でなされていくことである。

私たちの地域で学んでいる学生が、楽しく充実した学生生活を送ってもらいたい。地域社会としては、それを手助けできればと思っている。

地域社会は課題の宝庫である。これを解決することに一緒に取り組んでいければと考えている。

また、小中学生の勉強（宿題）を見てもらえるといった機会があるとアピールになるのではないかと。

大塚委員（建築系企業）：私も地域連携が重要だと感じている。RJP活動は特徴的で重要な取り組みである。今年度の各科の取り組みから、個別には地域との連携が読み取れるものの、共通のテーマが聞こえてこない。地域と関わる共通テーマをもたせると各科影響しあえるのではないかと。

最近江戸の仕草という本を読んだが、江戸時代稼ぐ時間は1/3あとの1/3は地域貢献。

仕事と生業という区分けをしているが、両面ないと江戸時代では一人前でない。

人のために動く＝仕事・働くということ

稼ぐ＝生業 人のために動くということが働くことである。

そのような面でRJPを活用していくと良いのではないかと思う。
海外研修であるが、建築インテリア研修はイタリアに視察旅行に行った…とある。一方小笠原・ベトナムは研修となっているように感じる。単に見るだけでなく海外で研修・体験をすることが将来的にイメージとして残るのではないか。実際の体験ができる旅行となると良いと思う。

学生数については、日本の人口は2009年をピークとして下降している。世界人口も2050以降減少するといわれている。人が減るといことは成長企業ではないということである。これを念頭に学生募集を考えるべきである。

佐々委員（バイオ環境系団体）：アドミッション、ディプロマ、カリキュラムポリシー。大学同様に早くから着手されたことを高く評価します。

アドミッションポリシーは今回の資料には入っていないが、これら三つをどういう順番で見るかです。これらは学校の顔になる。例えば各科については縦に読むが、ディプロマだけで横に読んでも充実している。アドミッション、カリキュラム、ディプロマと横によんでも充実している。このようになることが必要だと思う。

子供の文集のようにAさんとBさんが作ってそれをガチャンと止めたというのは困る。編集者がついて、一人の人が書いたように読めるように、手をかけて作っていただきたい。

文部科学省の参考資料でディプロマポリシーのはじめの部分を見ると、教育理念に基づき…とある。しかし作成されたディプロマポリシーにはいきなり卒業認定の方針となっていて、各科ごとの教育理念の記載がない。

文部省の資料に従って作るのならば、教育理念があって基本的認定の条件があって、そして最後に学生の学習成果の目標がある。これらの言葉が縦にあり、それを横に読んでもおかしくないというようなチェックが必要。そして最後は法律的、倫理的に問題がないかチェックするという形で丁寧な作っていただきたい。頑張ってください。

小野寺委員（バイオ環境系企業）：退学者増とのことであるが、心理的な何かがあったのかと思う。

弊社でもメンタル不調者がでており、ストレスのケアを真剣にやる必要を感じている。

私も当校の卒業生であるが、年齢が高くして入学したため、若い学生とのギャップをやはり感じていた。ただ年齢の近い留学生とのやりとりで精神的な落ち着きを得た記憶がある。

実験班構成などに当時の先生方のご配慮もあったと思う。

ストレス＝退学ではないと思うが、勉強を続ける気持ちがわいてくる例としてご参考までにお伝えした。

霜野：委員の娘さんが授業は良いのだが面接で困ったというお話があったが、私たちの時は携帯もなく、人とのコミュニケーションということが非常に重要であった。今若い人たちは、SNSというかメールとラインで仕事がほとんど済んでいる。人と面と向かって話をしないでも仕事が成り立ってしまう。これは少し疑問である。インテリア関連団体が集まって、交流親睦を主体としてその中で共通した意見・情報交換をすることを狙った、交流をメインにした団体を立ち上げている。

今年は会場を借りて、都内で展示会やセミナー交流会をやるようとしている。テクニカルカレッジさんも後援団体として参加していただいている。

これからは人とひとが（面と向かって）話をしていくことが重要。この点で他科の人たちがあつまって一つのプロジェクトを進めていくRJPは非常に良いことである。

さらに他校の学生同士や企業の方との交流をいろいろやることで、面接のときも緊張せずに話せるようになるかと思う。今は話さないで人差し指一本で会話できる時代になってしまっている。

学校の教育の中、RJPを通してこの辺への対応が出来たら良いかなと。

第二号議案、第三号議案の説明、そして先ほどの皆様のご意見をいただきまして、学校関係者としての評価を行います。教育的視点の改善アプローチ、テクニカルカレッジらしい改善取り組みをしていると感じている。昨年度および今年度の取り組みとして適正な活動であると評価したい。

今後の改善努力として計画したものがどのように進んでいくか、取り組みの内容についてこれからも学校には情報公開をお願いしたい。

スムーズな議事進行ありがとうございました。これにて閉会といたします。

白井校長より

・退学率増加については、いくつかの理由があると思うが、募集活動と裏腹であったかと。

昨年度は例えば留学生で問題ありそうな者も入学させた。結局教育しきれないという負のスパイラルに陥ったと判断される。学校の品格に関わる問題でもあります。ダメなものはダメということで、入学について厳しく評価するようにした。そのためか今年度1年生は退学者がまだ出ていない。（昨年度は10名）

・3月に入学者が増加したのは、大学が入試選抜を厳しくしたことによる。23区内の大学は定員抑制などもあり入学者を増やせない状況。そのようなことで専門学校への流入が増えた。この現象には期待せずに、積極的に募集活動をするようにしたい。広報本部も人数をふやして高校訪問など精一杯の努力をしてくれている。

小学生に対しての理科実験教室の実施やゲームプログラミング科松田先生のキッズスクールを始めとした中野区とのコラボレーションを行うなど、取り組みは進めている。高校生以外の方に周知することも進めたい。

RJP 活動は能動的な受身でない人材を育てる、モチベーションをあげるためには非常に重要であると考えている。そのところをカリキュラムで作れるようになると教育機関としてはいいのではないかと思う。**RJP** を人材育成の仕組みとして発展させる必要がある。

佐々委員から指摘があった、**AP,CP,DP** を縦横につないで有機的な表現にすべきという意見もごもっともであり、**CP** ができた段階で全体ポリシーをつなげるような小冊子をつくらうかとも考えている。

面接に関しては **RJP** の効果が出るようになるとよいと思っている。

7 次回日程について（井坂副校長）

11月22日（木）18時00分～20時00分 開催を予定している。

本日はお忙しい中お集まりいただきご審議いただきましたことお礼申し上げます。

長時間ありがとうございました。

以上

議事録署名人

_____ 印

_____ 印